

創造・参加・実践
No.790

最新のJR西労組運動をチェックしよう!
JR西労組HP (http://www.jrw-union.gr.jp)



「友だち追加」から「ID検索」または「QRコード」で登録!
@dzc0159s



西日本旅客鉄道労働組合

〒530-0012 大阪市北区芝田2丁目1番18号
西阪急ビル9階
TEL 06-6375-9869(代)
FAX 06-6373-4133

発行責任者 羽野 敦之
編集責任者 白井 聖二

2026年 事故を決して忘れず、安全を誓う集い

ABC運動を浸透させ、職場から安全の確立を

JR西労組は、2026年4月25日(土)、TKPガーデンシティ大塚リバーサイドホテルにおいて、「2026年 事故を決して忘れず、安全を誓う集い」を開催し、JR西日本連合グループ単組代表者を含めた273名参加のもと、あらためて安全確立に向けて取り組む決意を誓い合った。

冒頭、出席者全員で黙祷を捧げ、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、主催者を代表して羽野執行委員長は、①福知山線列車事故から21年を迎えるにあたり、②事故が奪った人生と信頼回復に向けて、③見えにくい、気づかないリスクについて、④「だるう」作業から「か

もれない」作業への意識転換について挨拶を行った。来賓を代表して、JR連合上村会長は、①不安全事故、信頼を失い兼ねないコンプライアンス違反について、②多発する死亡労災について、③JR連合安全指針について挨拶を行った。

基調講演では、関西電力株



来賓を代表して挨拶するJR連合上村会長



基調講演を行う関西電力株江口マネージャー



中村業務部長によるJR西労の安全の取り組みの報告



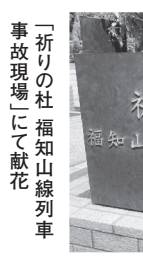
集会アピールを发表する高杉青年女性委員長

式会社人財安全推進室全推進グループマネージャー江口智也氏より、「関西電力グループにおける安全文化構築継承のための安全活動について」と題して、2004年に発生させた美浜原子力発電所3号機の事故等を教訓とした「安全理念」、安全活動における「12の安全活動

共通着眼点、具体的な取り組みとして、グループ全体での情報共有、グループおよび協力会社における安全啓発活動、安全に関する教育・研修活動、労働災害発生時の情報と防止対策の共有などについて講演をいただいた。

一人ひとりが安全の担い手であるという自覚を持ち、自らの安全行動を確実に実践すること。また協力会社等との相方向のコミュニケーションを大切に、PDCAによる継続的な改善や教育情報共

有を通じて安全文化を高め、災害ゼロの実現をめざして取り組む姿勢を学んだ。その後、「JR西労組の安全の取り組み」と題して、中村業務部長(安全担当)より、グループ会社も交えた会議や委員会での共有、労使安全会議での問題提起、事故を風化させない取り組み、安全に関するアンケート結果が報告され、職場からの更なる安全の確立に向け、職場と安全をつなぐツールである「安全



「祈りの杜」福知山線列車事故現場にて献花

お守り手帳」の活用について提起がなされた。最後に、参加者全員で「すべてのJR西労組、JR西日本連合組合員の参画によって、妥協なく安全を追求し、労働組合のチェック・提言機能を発揮していく」ことを集会アピールで誓い合い、集いを締めくくった。

また、4月28日(火)、中央本部は「祈りの杜」福知山線列車事故現場ならびに塚本ノ崎駅間消防隊員触車事故慰霊碑へ花を手向け、二度と悲惨な事故を起こさないこと、全組合員で安全確立に向けた取り組みを推進していくことを誓った。

国土交通省鉄道局への要請行動を実施 バス運転士不足の課題北陸新幹線の早期着工・開業を訴える

中央本部は、4月20日(月)、JR連合産業政策委員会が中心となる、国土交通省鉄道局への要請行動に参加した。

当日は、JR連合、21世紀の鉄道を考える議員フォーラムに所属する、古川元久衆議院議員に、同席いただき、「鉄道を取り巻く環境は、さ

まざまな課題が山積しているが、日本の観光資源を守るためには鉄道は不可欠である。お互い将来を見据えた建設的な意見交換としたい」と、挨拶をいただいた。

冒頭、JR連合を代表して、羽野副会長(産業政策委員長)JR西労組中央執行委員長は、「4月25日は、福知

山線列車事故の21年目の命日である。JR産業の安全確立に向けた取り組みを進めていく」と述べるとともに、各種課題の解決に向け、議論の深掘りを要請した。

梨加総務課企画室長は、直近の課題として中東情勢に触れ、「人財確保の取り組み」「ローカル線の対応」「鉄道分野における環境の取り組み」などについて述べたほか、「鉄道行政に関わる諸課題の解決に向けて真摯に取り組む」と述べた。

産業政策委員会の各委員からは、JR二島貨物会社の経営自立や、合理性ある運賃料金制度への改定、脱炭素に向けた鉄道への支援、鉄道インフラ基盤の強化について提起し、災害への対応などの要請を行った。

また、JR西労組からは、持続可能な交通体系の構築として「バス運転士不足の課題提起」と、北陸新幹線の整備計画推進として「早期着工・開業はJR西日本グループで働く組合員が望んでいる」と、現場の声を踏まえた発言を行った。

我々の産業や生活には、労働関係だけでは解決できない課題があることを認識し、これら現実を直視し、政治への理解を深める取り組みを進めるとともに、JR西労組の政策課題に賛同する国会議員や地方議員を増やしていく運動を積極的に展開する。



鉄道を取り巻く各種課題の解決に向け、議論の深掘りを要請

【集会アピール】

—ABC運動を浸透させ、職場から安全を確立しよう—

2005年4月25日の福知山線列車事故から21年、本日、私たちJR西労組は、「事故を決して忘れず、安全を誓う集い」を開催しました。あらためて、事故で尊い命を失われた107名の御霊のご冥福をお祈りするとともに、お身体や心に大きな傷を負われ、今なお苦しんでおられる多くの皆様の一日も早いご回復をお祈り申し上げます。そして、安全の確立を運動の最優先課題に位置付け、事故が取り返しのつかない悲劇を生むという事実を決して忘れることなく、二度と悲惨な事故を起こさないために、さらなる安全性の向上に取り組んでいく決意を明らかにします。

この21年の間、私たちは事故の反省と教訓を胸に刻み、労使の真摯な協議を経て、「安全性向上計画」、「安全基本計画」、「安全考動計画2017」、「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」、「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2027」の策定につなげ、その実践と目標の達成に向けて取り組んできました。これまでの不断の努力の結果、着実に職場の安全と組合員の安全意識は向上していますが、一方で、死亡労災や重大事故につながりかねない事象も発生しています。あらためて、基本作業の確実な実行や決められたルールの遵守を徹底するとともに、ヒューマンファクターの観点からも対策を講じていく必要があります。

本集会では、関西電力グループの安全文化の構築・継承についてご講演いただき、一人ひとりが安全の担い手であるという自覚を持ち、自らの安全行動を確実に実践すること、また協力会社等との相方向のコミュニケーションを大切に、PDCAによる継続的な改善や教育・情報共有を通じて安全文化を高め、災害ゼロの実現をめざして取り組む姿勢を学ぶことができました。

また、JR西労組の安全の取り組みとして、JR西日本グループ鉄道安全考動計画2027「第1回検証アンケート」、JR西日本連合「安全職場実態アンケート」、JR西日本「安全に関するアンケート」結果の比較を報告しました。

あらためて、「安全お守り手帳」を活用した職場点検を進め、チェック・提言機能に磨きをかけ、働く者の立場から問題提起を行うことの重要性を再認識しました。引き続き、職場からの安全確立に向け、日々の業務における確認会話を徹底し、「当たり前のことを、バカにせず、ちゃんとする(ABC運動)」を各職場へ浸透させ、働く者の全員参加で安全を作っていきます。

事故後に入社した組合員が7割を超える中、事故前後に様々な経験をされている職場の先輩が、その経験や事故後に変更したルール、仕組みなどを自分の言葉で伝え、すべての組合員が事故を心に刻み、二度と悲惨な事故を発生させないように取り組んでいかなければなりません。

本日の集会を機に、すべてのJR西労組、JR西日本連合組合員の参画によって、妥協なく安全を追求し、労働組合のチェック・提言機能を発揮すべく、着実に運動を推進していくことを誓い合い、集会アピールとします。

2026年4月25日

西日本旅客鉄道労働組合(JR西労組)
「事故を決して忘れず、安全を誓う集い」

また、JR西労組からは、労働組合のチェック・提言機能を発揮すべく、着実に運動を推進していくことを集会アピールで誓い合い、集いを締めくくった。

また、4月28日(火)、中央本部は「祈りの杜」福知山線列車事故現場ならびに塚本ノ崎駅間消防隊員触車事故慰霊碑へ花を手向け、二度と悲惨な事故を起こさないこと、全組合員で安全確立に向けた取り組みを推進していくことを誓った。